

第5節 南京の商圈概況

1. 南京の商圈実態

元来、百貨店業態が少なかった南京であるが、近年は他都市に比べ、著しいスピードで量質ともに伸びている。南京市において最も著名な商圈は新街口商圈であるが、ここ数年、湖南路山西路商圈、珠江路商圈、夫子廟商圈などの発展も目覚しい。これらの商圈は地下鉄1号線駅周辺に位置しており、商圈間の移動も便利である。

[南京市内主要商圈の位置関係図]



(1) 新街口商圈

南京で商圈といえば、新街口というほど、新街口商圈(華東第一商圈)の認知度は南京庶民の意識の中に深く定着している。それは南京市に所在する有名百貨店の60%以上がこの地域に集中し、年間100億元を超える売上があがっているためである。この商圈は地図上でも南京の中心に位置し、百貨店業界においても南京市の中心的存在といえよう。

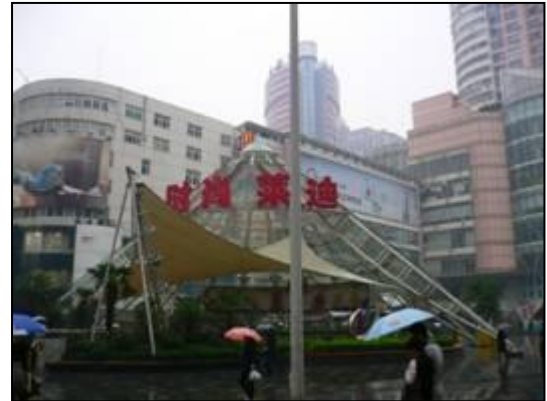
そのうち、国際有名ブランドが多く入店し、富裕層を



地下鉄構内の売り場

ターゲットとしている施設は東方商城、德基広場、金鷹国際購物中心である。また、香港系の恒隆集團(hanglung)、置地広場(The Landmark)も新街口商圏の東北側に進出する計画もあるようだ。これらの高級百貨店とともに、蘇寧電気・五星電気・国美電気(電気専門店)、ウォルマート(ハイパー・マーケット)など他の業態と一体となり、新街口商圏の商戦は白熱化している。

新街口商圏では、大型百貨店と地下鉄の各出口が繋がっており、地下にも巨大な売り場(时尚莱迪などの個人経営ショップ・飲食店)が広がっている。地下鉄利用客を呼び込めること、そして若者向けのショップも多いため、百貨店よりも、地下の売り場のほうが一般庶民には人気がある模様だ。时尚莱迪などは地下鉄ができる前から営業していたこともあり、地下鉄駅が出来たことによって商業施設同士が連結し、相乗効果を発揮している。



地下売り場「时尚莱迪」

また、2009年中には地下鉄2号線も竣工予定のため、現在改造工事も実施されている。近い将来、商業施設の横方向(東西方向)展開も期待されている。



主要な商業施設: 東方商城、南京新百、德基広場、中央商場、中央商場、金鷹国際購物中心、金輪新天地、華聯商厦、时尚莱迪など

(2) 湖南路山西路商圈

山西路は新街口に次ぐ商圈であり、新街口と違い、数年前までは百貨店はほとんど存在しなかった。代わって伝統的販売市場が庶民をターゲットとして日用品を取り扱っていたが、昔の南京において新街口以外の唯一の商業街であった。また、南京の名所旧跡である玄武門、玄武湖公園などと近いことから、観光のついでにショッピングする場所としても恵まれている。

2000 年前後、五星電気が IT 家電専門店として出店し、時を前後して獅子橋という飲食街も出来たため、山西路は徐々に近代ショッピング・ストリートへと生まれ変わった。現在、従来からある山西路百貨、太平洋百貨のほかに、蘇寧環球購物中心、蘇寧銀河購物中心、南京八佰伴などの総合ショッピングモールもでき、有力商圈として見直されてきており、今後さらなる飛躍が期待されている。

主要な商業施設：南京八佰伴、蘇寧環球購物中心、蘇寧銀河購物中心、太平洋百貨など。



蘇寧環球購物中心

(3) 珠江路商圈

珠江路は北京の中関村市場(IT 製品)と肩をならべ、専門サイト(<http://www.zhujiangroad.com>)が出るほど、元来 IT 製品の専門販売市場として知られており、数百の IT 製品専売店が展開されていた。百貨店とも無縁のようだが、近くには 100 年以上の歴史を持つ南京大学、東南大学などの名門大学、そして IT 系関連企業が多いため、学生やホワイトカラーなど若世代に対する集客力は高い。

この商圈の商業施設は新しく、2007 年 11 月に新世界百貨、2007 年 12 月に金鷹天地購物中心ができたばかりである。そのため、これらの百貨店は若者に人気のカジュアル・ブランドを多く取り入れ、高価な商品ではなく、品質が高くファッション性のある商品ラインナップが多い。

最近、香港の庄勝集団が庄勝崇光百貨を珠江路に出店する話もあるようだ。そして、新街口商圈にある德基広場 2 期は珠江路近隣の長江路まで延伸している。そのため、今は未熟であるが将来的には発展の可能性を秘め、新街口商圈のサブ商圈として成長していくと見られている。

主要な商業施設：金鷹天地購物中心、新世界百貨、など。



雄獅國際大廈 IT 製品專門売場

(4) 夫子廟商圈

中国古代の教育家である「孔子」を祀る場所として名づけられたのがその源であり、また古代の学校である学宮や挙試験場である江南貢院、皇族住居の遺跡など数多く残っており、現在は南京の旅行スポットとして年間数百万人の観光客が訪れている。

飲食店の数が多かったこともあり、1997年には美食街が建設され、「秦淮八絶」と呼ばれる南京特色料理が人気を呼んでいる。一方、観光客をターゲットに販売するお土産商品店、靴・ウェアなど各種販売店も多数展開されている。そのため、以前から南京市民のレジャースポットとしても活用されている。

建康路を隔てて、夫子廟の向こう側にはショッピングモールの水遊城が2008年に開業した。同商圈では初の総合百貨店であるうえ、家族全員が楽しめる施設構築を工夫しているため、南京市民による家族連れ消費や観光客のレジャー消費を狙っている。

主要な商業施設：南京水遊城など。



夫子廟の夜景



南京水遊城

2. 南京概況

南京市は江蘇省の省都であり、西安、北京、洛陽とともに、中国の四大古都という名を有している。かつては三国・呉、東晋、南朝の宋・齊・梁・陳（総称して六朝という）、十国の南唐や明の首都であり、そして孫中山が建国した中華民国の大統領府も南京に設置した。そのため、歴史的名称旧跡は今も多数（四十八の特色景色がある）残っており、情緒豊かな南京文化を醸し出している。

(1) 地理、気候

江蘇省の中西部に所在し、滬寧鉄道（上海⇄南京）、滬寧高速道路（上海⇄南京）などの幹線道路の西側のターミナルである。また、揚子江が南京市の北部を通り、東へ流れていく。また亜熱帯湿潤気候に属している。しかし、北側に揚子江、東・南・西側に丘陵地形が全市面積の約65%を占めるため、夏は平均35℃以上に達し（重慶、武漢と並ぶ中国三大竈の一つ）、冬は-10℃まで冷えこみ積雪があるほど寒い。

(2) 面積、人口

同市の総面積は6,582.31平方kmである。2007年末、同市の戸籍人口は624万人で、江蘇省北部、安徽省など他省からの出稼ぎ労働者を含めると、統計上の常住人口は既に740万人を超えている。近い将来に、1,000万人大都市になるとの見方もある。なお2007年度の一人当たり可処分所得は20,317円である。

(3) 市区構成

同市は玄武、白下、秦匯、建鄴、鼓楼、下関、浦口、六合、栖霞、雨花台、江寧の 10 区と、溧水県、高淳県の 2 県から構成されている。

(4) 交通

① 飛行機

禄口国際空港は 1997 年に開通、空港棟建築面積は 13.2 万㎡で、滑走路 2 本を有する。2009 年の年間離着陸便数は延べ 10 万 6 千機、延べ乗客数 1,080 万人、年間貨物扱い量は 20 万トンで、乗客数では中国国内第 14 位、貨物取扱量は中国国内第 9 位であった。現在、国内 42 の都市と、ソウル、大阪、バンコク、フランクフルトなどを含む 19 の国を結ぶ合計 120 線路が運行されている。

② 鉄道

南京市をも通る京滬高速铁路は、設計速度 380km/h、上海-北京を最短 4 時間で結ぶ高速鉄道である。総工費 2,200 億元で当初 2012 年 12 月に完成を予定していたが、予定を前倒して、2011 年 6 月に開通を向かえた。

上海-南京間の都市間鉄道は 2010 年に完成し、両都市間を最短 73 分で結んでいる。



③ 地下鉄

南京の地下鉄は、市の南北を結ぶ 1 号線と東西を結ぶ 2 号線が開通している。現在建設中の 3 号線と 10 号線はいずれも長江を渡る路線で、それぞれ、2014 年、2015 年の完成を予定している。

南京の都市交通網は、2030 年を目処に最終的には 17 号線までの地下鉄と 6 本のモノレールの整備が計画されている。

④ 高速道路

南京⇔上海高速道路、沿江高速道路、南京⇔上海第二高速道路(2007 年着工、2012 年開通予定)、蘇州⇔上海高速道路、南京⇔杭州高速道路、南京二橋高速道路、南京三橋高速道路、南京⇔合肥高速道路など南京を端とする高速道路網が整備されている。

南京駅(北京⇔上海高速鉄道)、南京西駅(北京、上海、広州、成都、昆明、杭州、寧波、厦門、蘭州)。